

2-6. グラフの注意点：誤解を与えるグラフ、間違えやすいポイント

前回学んだように、グラフは情報を伝えるために重要なツールとなる。それは、グラフを見たときに感覚的に情報をとらえることができるからである。しかし、不適切な描き方をしたグラフの場合には聞き手や読み手に誤解を招くようなものもある。今回の授業では具体的なグラフをもとに何が問題となるか考えていきましょう。

次の6個の画像はあるデータをまとめたグラフである。これらのグラフには見る人に誤解を与える可能性が高い表現が使用されています。どの部分がそれにあたるでしょうか？

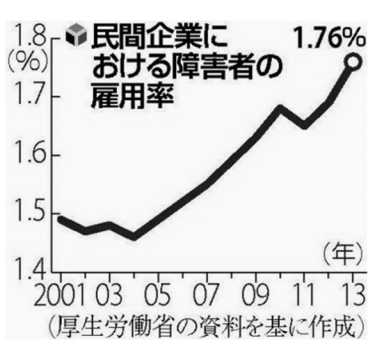
+α グラフを作成した側にはどのような意図がありそうでしょうか。

(1) おみくじ 100 枚中の凶の割合



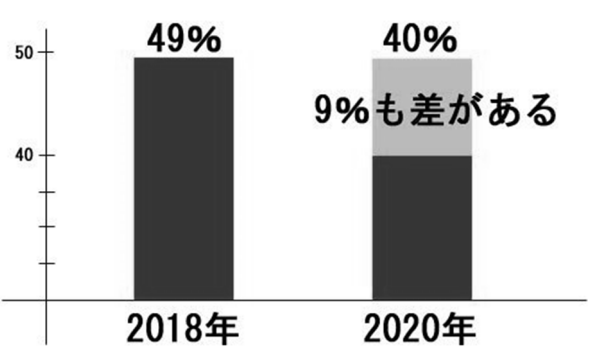
誤解を招く表現・意図

(2) 民間企業における障がい者の雇用率



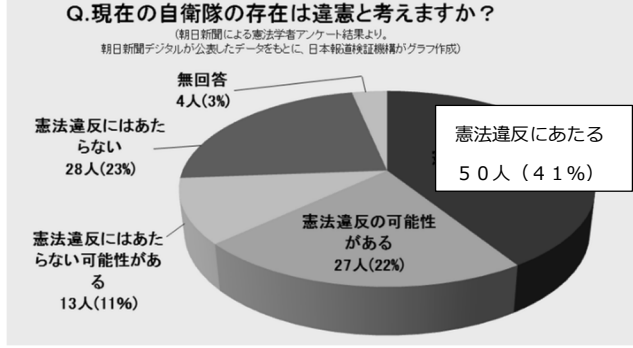
誤解を招く表現・意図

(3) %の差を比較する



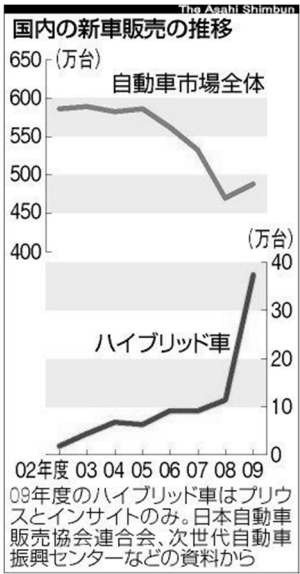
誤解を招く表現・意図

(4) 自衛隊について意識調査



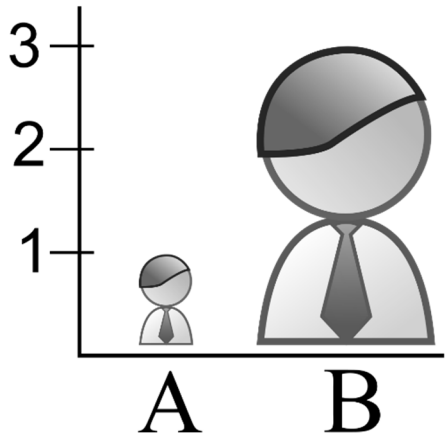
誤解を招く表現・意図

(5) 車の販売台数



誤解を招く表現・意図

(6) A、B の比較 絵柄を使用



誤解を招く表現・意図

(1) ～ (6) までのグラフを正しいグラフにするためにはどのように改善すればよいだろうか。改善点を考えてみよう。

(1)	(2)
(3)	(4)
(5)	(6)

令和4年度 第1学年 探究基礎 授業ワークシート 2学期

次の実験を行った結果をグラフにした。

実験：気温とある店でのアイスの販売個数を調べた。

実験結果を以下の表に示す。

表1：気温とアイスの販売個数

温度	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38
アイスの販売数	14	20	28	30	40	70	80	90	80	60

表からグラフを作成した。

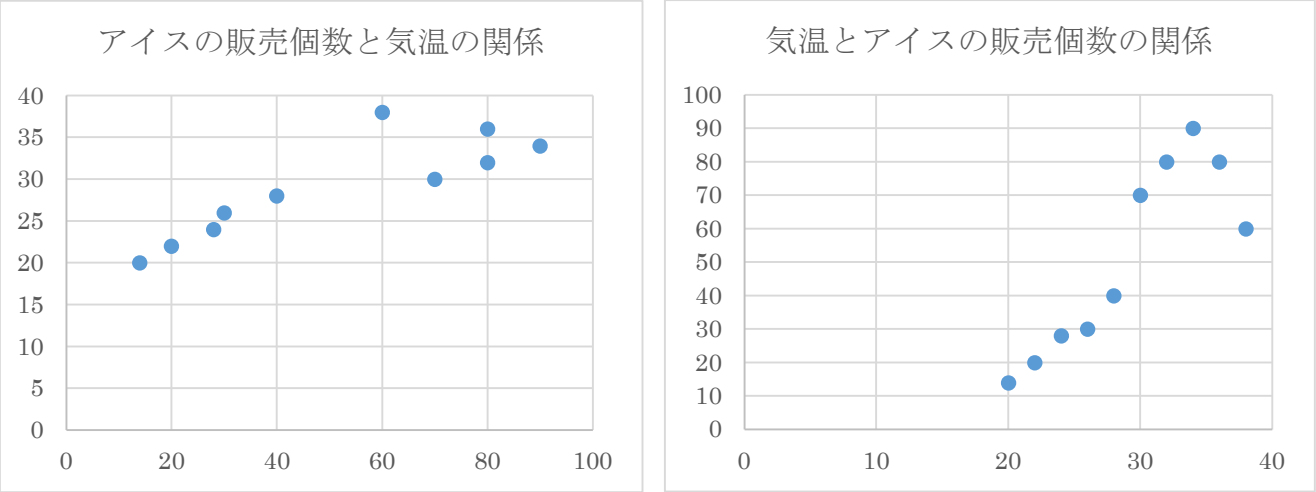


図1：気温とアイスの販売の関係

どちらのグラフが適当でしょうか？（軸のタイトルはわざと省略しています）

実験などで、原因となる要因を（ ）といい、結果として表れるものを（ ）という。

グラフでは特段の事情がない限り横軸に（ ）をとり、縦軸に（ ）をとる。

このグラフから言えることを考えてみましょう。